

日本遺産「炭鉄港」を活用した交流人口拡大プロジェクト

【推進エリア】道央広域連携地域（空知地域、後志地域、胆振地域）

目的

日本遺産「炭鉄港」を構成する各文化財等を道内外の産業・鉄道遺産ファンなどへPRするとともに、次世代を担う子どもたちに向けた事業を展開するなど、地域特有の資産を生かした取組を推進し、交流人口の拡大を図る。

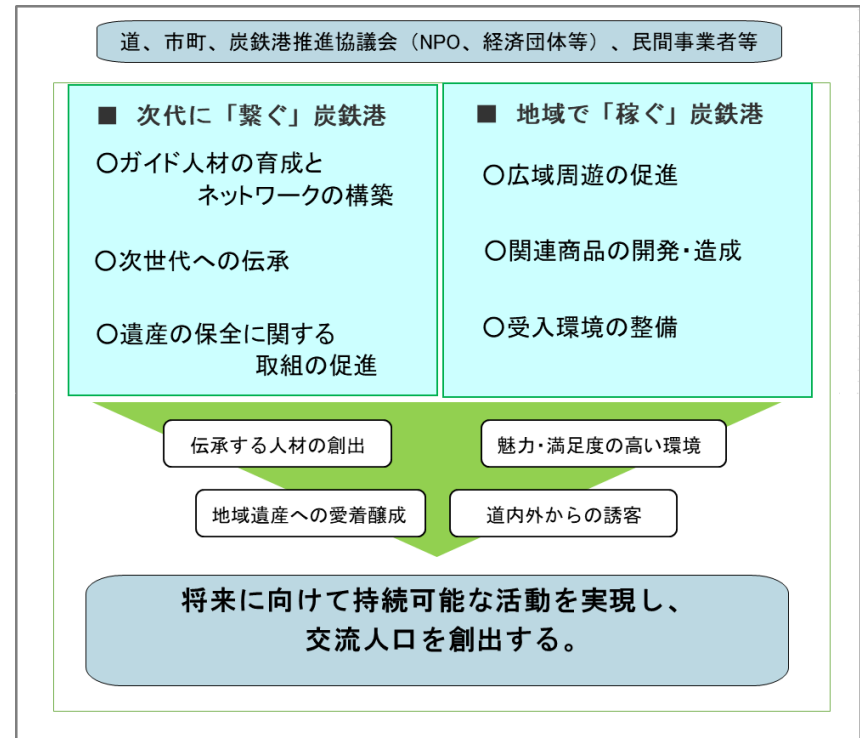
施策

■ 次代に「繋ぐ」炭鉄港

- ガイド人材の育成とネットワークの構築
- 次世代への伝承
- 遺産の保全に関する取組の促進

■ 地域で「稼ぐ」炭鉄港

- 広域周遊の促進
- 関連商品の開発・造成
- 受入環境の整備



KPI

□ 炭鉄港推進協議会構成市町の観光入込客数 7,250千人（R2）→ 7,468千人（R7）

アイヌ文化等の地域資源を活かした日胆地域活性化プロジェクト

【推進エリア】道央広域連携地域（胆振地域、日高地域）

目的	胆振・日高地域が連携し、アイヌ文化を核とした両地域の魅力ある地域資源を一体的に発信、相互に観光誘客を図る広域観光の促進により、関係人口の創出・拡大を図る。
施策	<ul style="list-style-type: none">■ 胆振・日高地域が有する地域資源の魅力の発掘・磨き上げ<ul style="list-style-type: none">○ アイヌ文化などの地域の歴史・文化の理解・体験機会の創出○ 2つのユネスコ世界ジオパーク（洞爺湖有珠山、アポイ岳）のさらなる魅力の向上○ 日本最大の軽種馬生産地域としての魅力の向上○ モニターツアーの実施などによる新たな地域資源の発掘○ 豊かな大地と海の食材など地域産品を活用した食のブランド力向上■ 地域の強みの国内外発信等による新たな人の流れの創出<ul style="list-style-type: none">○ ウポポイ開設を契機とする誘客及び広域周遊の促進○ アイヌ文化やジオパークなどの地域の歴史・文化をテーマとした教育旅行の誘致○ 海岸線や湖畔、牧場地帯などの豊かな風景を楽しむサイクルツーリズムの促進○ 支笏洞爺国立公園・日高山脈襟裳国定公園の魅力や登山情報の発信
KPI	□ 胆振・日高地域への観光入込客数 3,408万人（R1）→ 3,794万人（R7）

道内ジオパークの連携による地域力向上プロジェクト

【推進エリア】道央広域連携地域（胆振地域、空知地域、日高地域）

【連携地域を越えて取組を推進するエリア】上川地域、オホーツク地域、十勝地域

目的	各地域の連携を強め、魅力や学術的価値の積極的な発信を行うことや環境教育や防災教育の充実を図る等、道内ジオパーク間のネットワークの発展に向けた取組の推進に努める。
施策	<ul style="list-style-type: none">■ 各地域におけるジオパークを活かした特色ある取組の促進<ul style="list-style-type: none">○ ジオサイトや食の魅力発信、体験ツアーの実施○ ジオの恵みやストーリー性を活かした関連商品・サービスの創出○ ジオパークを題材とした環境教育・防災教育・ふるさと教育の推進○ ジオパークを舞台としたスポーツ大会など特色あるイベントの開催■ 道内ジオパーク間のネットワークの構築<ul style="list-style-type: none">○ 道、関係市町村、企業、NPO等の情報共有体制の整備○ ジオパークに携わる多様な主体の学びの機会の創出■ 道内ジオパークの連携による地域の魅力発信・関係人口の創出・拡大<ul style="list-style-type: none">○ 道内ジオパークに係る総合的な情報発信○ 歴史や文化をまとめた北海道のジオストーリーの発信○ 北海道のジオストーリーを活用した道内ジオパーク周遊のしかけ作り○ 国内外からの誘客促進とガイドや団体の育成等の受入体制の整備促進
KPI	□ ジオパーク構成市町への観光入込客数 1,017万人（R2）→ 2,130万人（R7）

縄文遺跡群を活用した魅力発信と誘客促進プロジェクト

【推進エリア】道南連携地域（渡島地域、檜山地域）、石狩地域、胆振地域

目的	<p>令和3年（2021年）7月に「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録決定され、北海道初の世界文化遺産が誕生した。</p> <p>先人から受け継いだ貴重な財産への理解を深め、郷土の誇りと愛着を再認識することで、次世代へ継承していくとともに、この魅力ある地域資源を活用し、観光など地域産業の活性化に繋げる。</p>								
施策	<p>■ 縄文文化の魅力発信と次世代への継承の推進</p> <ul style="list-style-type: none">○ 公共交通機関等へのポスター掲示やSNS等を活用した情報発信○ パネル展の実施のほか、イベントやメディアを活用した普及啓発○ 若年層を中心とした縄文文化の魅力や価値の理解促進○ 地域の縄文展示施設の利用促進 <p>■ 遺産を活用した誘客促進</p> <ul style="list-style-type: none">○ 縄文コンテンツを活用した観光への利活用の推進○ 地域資源を活用した商品開発・販売の促進								
KPI	<p>□ 観光入込客数</p> <table data-bbox="1135 1103 1815 1250"><tr><td>渡島地域</td><td>688万人 (R2) → 1,371万人 (R6)</td></tr><tr><td>檜山地域</td><td>105万人 (R2) → 150万人 (R6)</td></tr><tr><td>胆振地域</td><td>931万人 (R2) → 1,764万人 (R6)</td></tr><tr><td>石狩地域</td><td>1,336万人 (R2) → 3,100万人 (R7)</td></tr></table> <p>□ 多言語化など、縄文文化の理解促進に向けて新たな取組を行った施設数（渡島地域）</p> <p>1施設 (R2) → 11施設 (R7)</p>	渡島地域	688万人 (R2) → 1,371万人 (R6)	檜山地域	105万人 (R2) → 150万人 (R6)	胆振地域	931万人 (R2) → 1,764万人 (R6)	石狩地域	1,336万人 (R2) → 3,100万人 (R7)
渡島地域	688万人 (R2) → 1,371万人 (R6)								
檜山地域	105万人 (R2) → 150万人 (R6)								
胆振地域	931万人 (R2) → 1,764万人 (R6)								
石狩地域	1,336万人 (R2) → 3,100万人 (R7)								

未来技術の導入などによる産業振興・担い手確保プロジェクト

【推進エリア】空知地域

<p>目的</p>	<p>基幹産業である農業分野などで、「北海道Society5.0推進計画」の中でも示されているICT等の先進技術の導入を積極的に進め、生産性向上や担い手の育成・確保を図るほか、空知産農産物のブランド化を推進する。併せて、地域資源を活かした企業・研究機関等の誘致促進やものづくり産業人材の確保・定着を進める。</p>	
<p>施策</p>	<p>■ ICTの活用などスマート農業の推進による農業生産力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲低コスト・省力化栽培技術の普及や、ICTの活用に向けた実証実験などによるスマート農業の普及・促進 ○ 野菜、果樹、花など地域の特産品の生産維持に向けた取組の検討 ○ 農業生産法人化や新規就農者・後継者などの育成・確保に向けた取組の促進 ○ 地域に根ざした食育の推進による次世代リーダーの育成 ○ 障がいのある方の農業就労の場の確保に向けた農福連携の取組の推進 <p>■ 農産物ブランド化の推進、農産物をベースにした加工品づくりと付加価値向上及び国内外への販路開拓の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 米をはじめ野菜、花などの空知産農産物や加工品のブランド化、販路拡大に向けた情報発信やPR活動の実施 ○ 6次産業化、農商工連携による付加価値の高い商品開発や人材育成への支援 ○ 醸造用のぶどうの生産拡大と良質なワインづくりへの支援による産地形成 ○ 輸出などによる販路開拓の促進 	<p>■ 地域の特性を活かした企業や研究機関等の誘致に向けた取組の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 関係団体と連携し、雪氷冷熱や良質な農産物など地域特性を活かした企業や、試験研究機関等の誘致促進並びに農作物の高付加価値化など、貯蔵機能の向上に向けた取組の促進 ○ 「ゼロカーボン北海道」の実現に向け、木質バイオマスをはじめとした再生可能エネルギーの導入など脱炭素化の取組の促進 ○ 都市圏から管内への人材誘致・定着に向けた取組の促進 ○ 地元の新規学卒者など若者を中心とした人材の確保・定着 ○ ワークーションやテレワークなど多様で柔軟な働き方への受入体制の確保 <p>■ 仕事と生活情報の一体的な発信などによるものづくり産業人材の確保・定着に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 都市圏から管内への人材誘致・定着に向けた取組の促進（再掲） ○ 移住・定住に向けた、地域の「しごと」「住まい」「暮らし」に関係する団体との情報共有と一体的な情報発信及び移住相談・体験の促進 ○ 移住者向けの住環境や子育て支援などの受入体制の充実 ○ 地元の新規学卒者など若者を中心とした人材の確保・定着（再掲） ○ 障がいのある方の農業就労の場の確保に向けた農福連携の取組の推進（再掲） ○ ワークーションやテレワークなど多様で柔軟な働き方への受入体制の確保（再掲）
<p>KPI</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 空知の耕作面積の維持 <input type="checkbox"/> 新規高卒者管内企業就職率 	<p>113,600ha (R2) → 113,600ha (R7)</p> <p>60.9% (R2) → 63% (R6)</p>

地域の歴史や資源を活かした空知の魅力発信プロジェクト

【推進エリア】空知地域

目的	日本遺産「炭鉄港」をはじめ、ワインや日本酒、花など空知ならではの地域資源を活用して、魅力の積極的な発信や食と観光の振興を図り、北海道ブランドの強化や国内外との人と物の流れの創出を推進する。
施策	<ul style="list-style-type: none">■ 道内外へのPRによる交流の促進<ul style="list-style-type: none">○ 北海道空知地域創生協議会による「空知」の知名度向上に向けた道内外における戦略的な情報発信○ 農村ツーリズムや産業観光などの強みを活かした修学旅行・学習旅行等の誘致促進○ メディアやSNS等を活用した効果的な情報発信などによる関係人口の創出・拡大や道内外からの誘客促進○ 米をはじめ野菜、花などの空知産農産物、加工品のブランド化、販路拡大に向けた情報発信やPR活動の実施○ 都心部での感染症リスクに対する回避や田園回帰などの志向の高まりを踏まえ、地域の魅力を活かしたライフスタイルの発信などによる移住・定住の促進○ ワークーションやテレワークなど多様で柔軟な働き方への受入体制の確保○ 都市圏からの地理的優位性を活かしたマイクロツーリズムの推進■ 豊かな地域資源や地域に根ざした食の魅力を活かした観光の振興<ul style="list-style-type: none">○ 空知産ワインや日本酒等に合う料理など地元食材を活用した食の魅力づくり○ 地場農産物や炭鉱グルメなど地域に根ざした食の魅力を活かした食観光の推進○ 都市圏からの地理的優位性を活かしたマイクロツーリズムの推進（再掲）○ 交通拠点と観光拠点を結ぶ交通ネットワークの充実に向けた取組の促進○ 感染症対策にも配慮した地域における観光地づくりの推進や外国人観光客の受入体制の整備○ サイクルツーリズムなどの地域資源を活かした体験型観光の推進○ 農村ツーリズムや産業観光などの強みを活かした修学旅行・学習旅行等の誘致促進（再掲）■ 魅力ある地域資源の活用や効果的な情報発信などによる関係人口の創出・拡大や道内外からの誘客促進<ul style="list-style-type: none">○ 北海道空知地域創生協議会による「空知」の知名度向上に向けた道内外における戦略的な情報発信（再掲）○ 移住・定住に向けた、地域の「しごと」「住まい」「暮らし」に関する団体との情報共有と一体的な情報発信及び移住相談・体験の促進○ ワインをはじめ、炭鉱遺産や花などの豊かな地域資源を活かした誘客の促進○ メディアやSNS等を活用した効果的な情報発信などによる関係人口の創出・拡大や道内外からの誘客促進（再掲）○ ワークーションやテレワークなど多様で柔軟な働き方への受入体制の確保（再掲）○ 都市圏からの地理的優位性を活かしたマイクロツーリズムの推進（再掲）
KPI	<ul style="list-style-type: none">□ 「そらち・デ・ビュー」公式SNSのフォロワー数 6,522人（R2）→ 14,500人（R7）□ 管内への観光入込客数 1,232万人（R1）→ 1,278万人（R6）□ 移住相談件数 574件（R2）→ 607件（R7）

空知と多様な形で関わりを持つ人材創出プロジェクト

【推進エリア】空知地域

目的	オール空知の連携を深めながら、安心して住み良い暮らしの形成や雇用対策を進めるほか、地域住民のシビックプライド醸成を図りながら次世代リーダーを育成するとともに、移住・定住対策や多様で柔軟な働き方の受入体制の確保など、関係人口の創出・拡大を図る。									
施策	<table border="0"><tr><td data-bbox="198 386 1036 725">■ 「北海道空知地域創生協議会」による総合的なプロモーションの実施<ul style="list-style-type: none">○北海道空知地域創生協議会による「空知」の知名度向上に向けた道内外における戦略的な情報発信○移住・定住に向けた、地域の「しごと」「住まい」「暮らし」に関する団体との情報共有と一体的な情報発信及び移住相談・体験の促進○ワーケーションやテレワークなど多様で柔軟な働き方への受入体制の確保</td><td data-bbox="1085 386 1906 753">■ 新規高卒者の地元就職の促進による雇用対策<ul style="list-style-type: none">○地元の新規学卒者など若者を中心とした人材の確保・定着○都市圏から管内への人材誘致・定着に向けた取組の促進○移住・定住に向けた、地域の「しごと」「住まい」「暮らし」に関する団体との情報共有と一体的な情報発信及び移住相談・体験の促進（再掲）○障がいのある方の農業就労の場の確保に向けた農福連携の取組の推進○ワーケーションやテレワークなど多様で柔軟な働き方への受入体制の確保（再掲）</td></tr><tr><td data-bbox="198 786 1036 1182">■ 安心して住み良いまちづくりに向けた取組の推進<ul style="list-style-type: none">○新型コロナウイルス感染拡大防止に向け、地域住民と事業者が連携した「新北海道スタイル」の推進○広域的な感染症治療も考慮した地域における医療連携や救急医療体制の充実○安心して子どもを生み育てることができる環境づくりの推進○高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる社会の形成○関係機関の連携による防災体制の強化○地域の実情に応じた地域交通ネットワークの維持・確保のための取組の促進○集落対策の促進、コミュニティの活性化</td><td data-bbox="1085 786 1906 1096">■ 地元住民のシビックプライド醸成及び「空知を育てる」次世代リーダーの育成<ul style="list-style-type: none">○振興局と管内自治体、民間企業などと連携し、シビックプライドを醸成するなど「関係人口」の創出・拡大に向けた取組の推進○地域に根ざした食育の推進による次世代リーダーの育成（再掲）○「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」の一体的な推進や地域課題探求型の学習体験を通じてまちづくりを牽引する地学協働体制の構築</td></tr></table>	■ 「北海道空知地域創生協議会」による総合的なプロモーションの実施 <ul style="list-style-type: none">○北海道空知地域創生協議会による「空知」の知名度向上に向けた道内外における戦略的な情報発信○移住・定住に向けた、地域の「しごと」「住まい」「暮らし」に関する団体との情報共有と一体的な情報発信及び移住相談・体験の促進○ワーケーションやテレワークなど多様で柔軟な働き方への受入体制の確保	■ 新規高卒者の地元就職の促進による雇用対策 <ul style="list-style-type: none">○地元の新規学卒者など若者を中心とした人材の確保・定着○都市圏から管内への人材誘致・定着に向けた取組の促進○移住・定住に向けた、地域の「しごと」「住まい」「暮らし」に関する団体との情報共有と一体的な情報発信及び移住相談・体験の促進（再掲）○障がいのある方の農業就労の場の確保に向けた農福連携の取組の推進○ワーケーションやテレワークなど多様で柔軟な働き方への受入体制の確保（再掲）	■ 安心して住み良いまちづくりに向けた取組の推進 <ul style="list-style-type: none">○新型コロナウイルス感染拡大防止に向け、地域住民と事業者が連携した「新北海道スタイル」の推進○広域的な感染症治療も考慮した地域における医療連携や救急医療体制の充実○安心して子どもを生み育てることができる環境づくりの推進○高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる社会の形成○関係機関の連携による防災体制の強化○地域の実情に応じた地域交通ネットワークの維持・確保のための取組の促進○集落対策の促進、コミュニティの活性化	■ 地元住民のシビックプライド醸成及び「空知を育てる」次世代リーダーの育成 <ul style="list-style-type: none">○振興局と管内自治体、民間企業などと連携し、シビックプライドを醸成するなど「関係人口」の創出・拡大に向けた取組の推進○地域に根ざした食育の推進による次世代リーダーの育成（再掲）○「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」の一体的な推進や地域課題探求型の学習体験を通じてまちづくりを牽引する地学協働体制の構築					
■ 「北海道空知地域創生協議会」による総合的なプロモーションの実施 <ul style="list-style-type: none">○北海道空知地域創生協議会による「空知」の知名度向上に向けた道内外における戦略的な情報発信○移住・定住に向けた、地域の「しごと」「住まい」「暮らし」に関する団体との情報共有と一体的な情報発信及び移住相談・体験の促進○ワーケーションやテレワークなど多様で柔軟な働き方への受入体制の確保	■ 新規高卒者の地元就職の促進による雇用対策 <ul style="list-style-type: none">○地元の新規学卒者など若者を中心とした人材の確保・定着○都市圏から管内への人材誘致・定着に向けた取組の促進○移住・定住に向けた、地域の「しごと」「住まい」「暮らし」に関する団体との情報共有と一体的な情報発信及び移住相談・体験の促進（再掲）○障がいのある方の農業就労の場の確保に向けた農福連携の取組の推進○ワーケーションやテレワークなど多様で柔軟な働き方への受入体制の確保（再掲）									
■ 安心して住み良いまちづくりに向けた取組の推進 <ul style="list-style-type: none">○新型コロナウイルス感染拡大防止に向け、地域住民と事業者が連携した「新北海道スタイル」の推進○広域的な感染症治療も考慮した地域における医療連携や救急医療体制の充実○安心して子どもを生み育てることができる環境づくりの推進○高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる社会の形成○関係機関の連携による防災体制の強化○地域の実情に応じた地域交通ネットワークの維持・確保のための取組の促進○集落対策の促進、コミュニティの活性化	■ 地元住民のシビックプライド醸成及び「空知を育てる」次世代リーダーの育成 <ul style="list-style-type: none">○振興局と管内自治体、民間企業などと連携し、シビックプライドを醸成するなど「関係人口」の創出・拡大に向けた取組の推進○地域に根ざした食育の推進による次世代リーダーの育成（再掲）○「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」の一体的な推進や地域課題探求型の学習体験を通じてまちづくりを牽引する地学協働体制の構築									
KPI	<table border="0"><tr><td><input type="checkbox"/></td><td>新規高卒者管内企業就職率</td><td>60.9% (R2) → 63% (R6)</td></tr><tr><td><input type="checkbox"/></td><td>移住相談件数</td><td>574件 (R2) → 607件 (R7)</td></tr><tr><td><input type="checkbox"/></td><td>認定子ども園設置数</td><td>20カ所 (R3) → 22カ所 (R7)</td></tr></table>	<input type="checkbox"/>	新規高卒者管内企業就職率	60.9% (R2) → 63% (R6)	<input type="checkbox"/>	移住相談件数	574件 (R2) → 607件 (R7)	<input type="checkbox"/>	認定子ども園設置数	20カ所 (R3) → 22カ所 (R7)
<input type="checkbox"/>	新規高卒者管内企業就職率	60.9% (R2) → 63% (R6)								
<input type="checkbox"/>	移住相談件数	574件 (R2) → 607件 (R7)								
<input type="checkbox"/>	認定子ども園設置数	20カ所 (R3) → 22カ所 (R7)								

石狩の若者の地元定着促進と道外からの人の呼び込みプロジェクト

【推進エリア】石狩地域

目的	<p>若者の道外への人口流出を抑制するため、教育機関や市町村、地元企業等との連携により、新規学卒者等の地元就職・地元定着を促進し、新たな就農環境づくりや企業誘致などによる雇用の場の創出に取り組む。 道外から人を呼び込むため、石狩地域で生活する魅力の発信や新たな生活様式に対応した働き方を推進しながら、関係人口の創出や拡大、移住・定住の促進に取り組む。</p>						
施策	<table border="0"><tr><td data-bbox="198 476 982 679">■ 若者の地元定着・就業に向けた取組の促進<ul style="list-style-type: none">○若者の地元定着の促進に向けた取組○地域の連携による若者の地元就業に向けた支援と早期離職防止の取組</td><td data-bbox="1234 476 1908 733">■ 道外からのU・I・Jターンの促進<ul style="list-style-type: none">○移住・定住促進のための効果的な情報発信○移住促進に向けた相談サポート○テレワーク環境整備の促進○サテライトオフィス設置の促進</td></tr><tr><td colspan="2" data-bbox="198 733 1284 1100">■ 地域産業の活性化や企業誘致等による雇用の場の創出<ul style="list-style-type: none">○スマート農業の推進と次世代の石狩農業を担う人材の確保・定着に向けた取組○農村ツーリズムの振興と地産地消の推進○道外企業の本社機能の地方移転の促進○ものづくり産業への支援を始めとした中小企業の振興と企業誘致の促進○地域資源を活かした6次産業化・農商工連携の推進</td></tr></table>	■ 若者の地元定着・就業に向けた取組の促進 <ul style="list-style-type: none">○若者の地元定着の促進に向けた取組○地域の連携による若者の地元就業に向けた支援と早期離職防止の取組	■ 道外からのU・I・Jターンの促進 <ul style="list-style-type: none">○移住・定住促進のための効果的な情報発信○移住促進に向けた相談サポート○テレワーク環境整備の促進○サテライトオフィス設置の促進	■ 地域産業の活性化や企業誘致等による雇用の場の創出 <ul style="list-style-type: none">○スマート農業の推進と次世代の石狩農業を担う人材の確保・定着に向けた取組○農村ツーリズムの振興と地産地消の推進○道外企業の本社機能の地方移転の促進○ものづくり産業への支援を始めとした中小企業の振興と企業誘致の促進○地域資源を活かした6次産業化・農商工連携の推進			
■ 若者の地元定着・就業に向けた取組の促進 <ul style="list-style-type: none">○若者の地元定着の促進に向けた取組○地域の連携による若者の地元就業に向けた支援と早期離職防止の取組	■ 道外からのU・I・Jターンの促進 <ul style="list-style-type: none">○移住・定住促進のための効果的な情報発信○移住促進に向けた相談サポート○テレワーク環境整備の促進○サテライトオフィス設置の促進						
■ 地域産業の活性化や企業誘致等による雇用の場の創出 <ul style="list-style-type: none">○スマート農業の推進と次世代の石狩農業を担う人材の確保・定着に向けた取組○農村ツーリズムの振興と地産地消の推進○道外企業の本社機能の地方移転の促進○ものづくり産業への支援を始めとした中小企業の振興と企業誘致の促進○地域資源を活かした6次産業化・農商工連携の推進							
KPI	<table border="0"><tr><td data-bbox="198 1215 940 1253">□ 新規大卒道内就職者の3年以内の離職率</td><td data-bbox="1052 1215 1773 1253">前年度より改善 (R3~R7) (※R1 : 36.4%)</td></tr><tr><td data-bbox="198 1258 940 1296">□ 石狩地域の新規学卒・参入者の就農者数</td><td data-bbox="1052 1258 1556 1296">5年間で延べ80人増</td></tr><tr><td data-bbox="198 1300 1017 1339">□ 若年層 (15~29歳) の首都圏への転出超過数</td><td data-bbox="1052 1300 1607 1339">3,352人 (H30) → 3,139人 (R6)</td></tr></table>	□ 新規大卒道内就職者の3年以内の離職率	前年度より改善 (R3~R7) (※R1 : 36.4%)	□ 石狩地域の新規学卒・参入者の就農者数	5年間で延べ80人増	□ 若年層 (15~29歳) の首都圏への転出超過数	3,352人 (H30) → 3,139人 (R6)
□ 新規大卒道内就職者の3年以内の離職率	前年度より改善 (R3~R7) (※R1 : 36.4%)						
□ 石狩地域の新規学卒・参入者の就農者数	5年間で延べ80人増						
□ 若年層 (15~29歳) の首都圏への転出超過数	3,352人 (H30) → 3,139人 (R6)						

石狩観光スタイルと石狩の食の魅力ブランド化推進プロジェクト

【推進エリア】石狩地域

目的	<p>道内をはじめとした国内外の交流人口や関係人口の拡大を図るため、都市と自然とを十分に満喫することができる石狩地域の特性を活かして、地域や観光事業者等との連携により魅力ある観光情報やさらなる発展が期待される地域の魅力を発信しながら、観光客を石狩地域へ誘引する取組を進める。</p>
施策	<ul style="list-style-type: none">■ 石狩観光スタイルの推進に向けた魅力発信<ul style="list-style-type: none">○地域の連携体制の強化による観光の推進○道内をはじめとした国内外からの誘客の促進に向けたプロモーション活動や情報発信と来道観光客を石狩地域へ誘引する取組○大型集客施設の建設や大規模イベントの開催に伴う地域の魅力発信■ 様々な観光客に向けたおもてなし環境の整備・充実<ul style="list-style-type: none">○外国人観光客の受入体制の整備・充実○観光ホスピタリティの向上と満足度の高い観光地づくりの促進■ 新たな観光メニューの開発や地域の食のブランド化の推進と魅力発掘<ul style="list-style-type: none">○自然、文化、スポーツ、食を楽しむ体験型コンテンツ等新たな観光メニューや観光ルートの開発○地域の食のブランドづくりの推進と魅力発信
KPI	<ul style="list-style-type: none">□ 観光入込客数 1,336万人 (R2) → 3,100万人 (R7)□ 農商工連携・6次産業化支援データベースの新規登録件数 38件以上 (R2～R6)□ 石狩の食の商品開発及び販路拡大等の相談会の確保 (相談件数) 60件以上 (R4～R6)

自然環境と調和した誰もが安心して暮らせる“いしかり”まちづくりプロジェクト

【推進エリア】石狩地域

目的	地域の住民一人一人が安心して暮らし続けることができるよう、環境や生態系の保全、脱炭素（ゼロカーボン）の取組促進、不法投棄防止対策などにより豊かな自然環境を守り育てるとともに、地域コミュニティ機能の維持・発揮に向けた取組や感染症対策を踏まえた防災対策の推進など、誰にとっても住みやすく災害に強いまちづくりに取り組む。
施策	<p>■ 豊かな自然環境を守り育てる取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none">○森林づくりボランティア活動の推進と人材育成及び木育の推進○エゾシカなどの鳥獣による被害状況等の把握と情報共有・助言など○鳥獣や外来種による農林業被害防止対策の推進と 狩猟者維持・担い手の確保○省エネルギー・新エネルギーの導入促進に向けた情報共有と支援○脱炭素型ライフスタイルの定着に向けた住民理解の促進○廃棄物適正処理、不法投棄等撲滅に向けた取組及び3Rの推進 <p>■ 誰もが安心して暮らせる社会の形成</p> <ul style="list-style-type: none">○地域住民や事業者との連携による新型コロナウイルス感染拡大防止対策の推進○高齢者の見守りや地域包括ケアシステムの推進、障がい者の自立支援、子育て支援の充実や 外国人との共生など地域コミュニティ機能の維持・発揮に向けた取組○高齢者のニーズに応じた住まいづくりの促進 <p>■ 防災対策の強化による安全なまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none">○災害に備えた社会資本の整備○防災教育の強化や自主防災組織の活性化に向けた取組の推進○災害時における避難支援対策の推進○関係機関との連携強化による防災体制の整備○土砂災害警戒区域等の指定○行政機能の業務継続体制の確保○感染症対策を踏まえた避難所運営による地域防災力の強化
KPI	<ul style="list-style-type: none">□ 協働により実施する石狩地域での木育活動 12回（R1） → 22回（R7）□ 石狩地域のエゾシカ捕獲推進プラン目標数の達成 毎年度同プランで設定する目標数□ 石狩地域の自主防災組織活動カバー率 61.6%（R2） → 全国平均値（R6）（※R2全国平均84.3%）□ 石狩地域のクリーンパートナー※登録団体数 96団体（R2） → 150団体（R7）

農林水産業の持続的発展・ブランド化推進プロジェクト

【推進エリア】後志地域

<p>目的</p>	<p>担い手の確保や収益性の向上に向けた取組を推進し、農林水産業の持続的発展を図るとともに、豊富で良質な1次産品を活用した商品開発や情報発信などにより、高付加価値化やブランド化を促進する。</p>																		
<p>施策</p>	<p>■ 高品質で収益性の高い農産物の栽培及びICTを活用した省力化技術の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高収益作物の導入 ○ICTを活用した省力化技術の普及 ○鳥獣被害防止の推進 <p>■ 道内一の収穫量を誇る醸造用ぶどうを活かしたワイナリーの集積</p> <ul style="list-style-type: none"> ○栽培・醸造・マーケティング等の技術の向上 <p>■ 日本海漁業振興を図るためのナマコやホタテなどの増養殖</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ナマコやホタテなどの増養殖の推進 ○トドなどの海獣による漁業被害防止対策の推進 ○密漁監視体制の強化 	<p>■ 磯焼け地帯の未利用資源であるウニの身入り改善等による付加価値向上及び安定供給体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ○海域特性に応じた効率的・効果的な栽培漁業の推進 ○天候に左右されない蓄養の体制整備の推進 ○トドなどの海獣による漁業被害防止対策の推進（再掲） ○密漁監視体制の強化（再掲） <p>■ 全道屈指の強度を持つ「ようていカラマツ」の利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ようていカラマツ」としてのブランド化の推進 ○地域の特性に応じた森づくりの推進 ○地材地消の推進 	<p>■ 多様な農林水産業の担い手の育成・確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ○担い手の育成・確保 <p>■ 多彩な一次産品や特産品の地元利用と道内外への販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特産品の発掘・磨き上げ ○安全・安心を基礎とした「食」のブランド力の向上 ○「ようていカラマツ」としてのブランド化の推進（再掲） ○地元食材のレストランでの利用促進など産消協働の推進 ○官民協働による国内外でのプロモーションの展開 																
<p>KPI</p>	<table border="0"> <tr> <td>□ 新品種農産物（シャインマスカット）出荷数</td> <td>2,520kg (R02)</td> <td>→</td> <td>6,000kg (R06)</td> </tr> <tr> <td>□ 新規就農者</td> <td>34人 (R01)</td> <td>→</td> <td>34人 (R07)</td> </tr> <tr> <td>□ 管内製材・木材チップ工場における原木消費量</td> <td>69,000m³ (R02)</td> <td>→</td> <td>77,000m³ (R07)</td> </tr> <tr> <td>□ 新規漁業就業者数</td> <td>7人 (R02)</td> <td>→</td> <td>9人 (R07)</td> </tr> </table>			□ 新品種農産物（シャインマスカット）出荷数	2,520kg (R02)	→	6,000kg (R06)	□ 新規就農者	34人 (R01)	→	34人 (R07)	□ 管内製材・木材チップ工場における原木消費量	69,000m ³ (R02)	→	77,000m ³ (R07)	□ 新規漁業就業者数	7人 (R02)	→	9人 (R07)
□ 新品種農産物（シャインマスカット）出荷数	2,520kg (R02)	→	6,000kg (R06)																
□ 新規就農者	34人 (R01)	→	34人 (R07)																
□ 管内製材・木材チップ工場における原木消費量	69,000m ³ (R02)	→	77,000m ³ (R07)																
□ 新規漁業就業者数	7人 (R02)	→	9人 (R07)																

国際観光リゾートエリアとしての 持続可能な観光地づくりと広域観光展開プロジェクト

【推進エリア】後志地域

目的	<p>国内客の呼び込みの拡大やポストコロナの観光需要回復を見据えたインバウンド受入体制の整備を推進するとともに、アドベンチャートラベル等の新たな観光資源の発掘・磨き上げや、地域内で作られる豊かな食資源を活かしたガストロノミーツーリズム等による広域観光や滞在・通年型観光の推進に取り組み、観光客が安心して楽しむことができる持続可能な観光地を目指す。</p>
施策	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>■ 後志地域の食資源を活用したガストロノミーをテーマとした広域観光の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○農業・漁業体験など一次産業や食品加工業を始めとする二次産業と観光事業者との連携を図りながら「食」を活かした魅力ある観光地づくり ○広域観光の推進 <p>■ リゾートエリアを中心としたウィンタースポーツのほか、管内各地で取組を進めている夏季のサイクリング、ラフティングなどのアドベンチャートラベルの推進による地域の魅力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○インバウンド受入体制の充実 ○官民協働による国内外でのプロモーション展開 ○自然・景観の保全と活用による質の高いリゾート地域の形成 </div> <div style="width: 48%;"> <p>■ 新たな交通ネットワークを広域的に活用するための連携した取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○宿泊地（ハブ）と周辺の地域（サテライト）が連携し、多彩な魅力ある観光資源を活用した通年型・滞在型観光の推進 ○シーニックバイウェイ北海道の推進 ○地域交通ネットワークの充実・確保 ○広域観光の推進 ○インバウンド受入体制の充実（再掲） ○自然・景観の保全と活用による質の高いリゾート地域の形成（再掲） <p>■ 地域の観光ビジネスで活躍できる国際感覚やコミュニケーション能力を備えた人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○インバウンド受入体制の充実（再掲） ○商品造成や観光誘客プロモーションができる人材の育成 </div> </div>
KPI	<p>□ 観光入込客数 2,142万人（R01） → 2,500万人（R07）</p>

ShiriBeshi多文化共生の「まち・ひと・しごと」づくりプロジェクト

【推進エリア】後志地域

目的	<p>冬季間の短期滞在者の通年雇用化による産業の担い手確保や、道内外や国外からの移住・定住の促進のため、関係機関が連携して就業支援や人材育成への支援を行う。</p> <p>また、地域における観光ビジネスや世界を相手に活躍できる人材育成に取り組むとともに、関係人口の創出・拡大や、増加する外国人住民とともに地域づくりを進めることで、多文化共生社会の実現に向けた取組を推進する。</p>
施策	<p>■ 冬季のリゾート地域の労働力を夏季の農業等における人手不足分野に結びつけることを通じて、通年雇用化等による定住を推進</p> <ul style="list-style-type: none">○無料職業紹介所の開設による就業相談の実施○移住フェアなど後志をPRする場への出展等○通年滞在に必要な情報を総合的に提供するワンストップ窓口の設置 <p>■ 年間を通じて多くの外国人が滞在する環境を活かした国際感覚やコミュニケーション能力を備えたグローバル人材の育成・多文化共生の推進</p> <ul style="list-style-type: none">○多文化共生に向けた多様な主体の交流機会や英語実践機会等の創出○外国人とのコミュニケーション等を通じた人材育成○外国人住民向け日本語教室の実施等の支援
KPI	<ul style="list-style-type: none">□ 管内就職件数（ハローワーク） 2,694件（R01） → R01実績以上（R07）□ 管内外国人住民数 3,447人（R02） → 5,200人以上（R07）

脱炭素社会を創造する「いぶり」産業展開プロジェクト

【推進エリア】道央連携地域（胆振地域）

目的	<p>胆振地域では、太陽光など多様なエネルギー源の活用のほか、水素の活用、二酸化炭素の分離・回収・貯蔵に関する実証試験など、脱炭素型社会の実現に向けた取組を積極的に進め、「ゼロカーボン北海道」の実現に向け、本道の脱炭素化をリードし、産業の持続的な発展に取り組む。</p>
施策	<ul style="list-style-type: none">■ 多様なものづくり産業拠点の形成促進<ul style="list-style-type: none">○ ものづくり産業拠点の重層化○ 自動車関連企業などの立地促進○ 脱炭素社会構築を通じた新たな産業・雇用の創出■ 産官学金連携などによる地域の強みを活かした産業の振興<ul style="list-style-type: none">○ 地域の伝統、先端技術の集積等の地域の強みを活かした産業の振興○ 脱炭素社会構築を通じた新たな産業の育成・振興○ 恵まれた物流アクセス環境を活かした移輸出拡大■ 再生可能エネルギーの普及や自然環境の保全などによる脱炭素化への取組促進<ul style="list-style-type: none">○ 太陽光、風力などの再生可能エネルギーや水素エネルギーの活用に向けた機運醸成○ 脱炭素型のライフスタイルやビジネススタイルへの転換に向けた普及啓発○ 地域住民や企業との協働による自然環境の保全に向けた取組の促進○ 計画的・効率的な造林や間伐、地域材の利用拡大など森林資源の循環利用の推進
KPI	<ul style="list-style-type: none">□ 新エネルギー導入量（発電設備容量） 86.7万kW（R2）→ 122.2万kW（R7）□ 道企業立地促進費補助金認定申請数 5件（R2）→ 10件（R7）□ 製造業の付加価値生産性 1,438万円（H30）→ 1,805万円（R7）□ 従業員数4～29人の事業所における常用雇用者数 4,340人（H30）→ 4,800人（R7）□ 間伐の実施面積 6,590ha（H27～R1累計）→ 9,100ha（R3～R7累計）□ 電気自動車、燃料電池車、天然ガス自動車、プラグインハイブリット自動車の合計台数（室蘭運輸支局管内） 601台（R1）→1,500台（R7）

住みたい・訪れたい「いぶり」地域づくりプロジェクト

【推進エリア】道央連携地域（胆振地域）

目的

胆振地域では、北海道いぶり五大遺産など特色ある豊かな地域資源を活かし、関係人口の創出・拡大に取り組みるとともに、地域の未来を支える人材の確保・育成や、胆振東部地震からの着実な復旧と未来へつなぐ復興を進め、住みたい・訪れたい地域づくりを推進する。

施策

■ 地域資源を活用した関係人口の創出・拡大

- 豊富な地域資源（北海道いぶり五大遺産、ウポポイ、食資源等）のさらなる磨き上げ及び情報発信の強化
- ウポポイ開設効果の持続発展と広域連携による周遊観光の促進
- 北海道いぶり五大遺産の活用による教育旅行の誘致やアドベンチャー・トラベルなどの体験型観光の促進
- いぶり型ワーケーションの取組による関係人口の創出・拡大
- 地域おこし協力隊等との連携による移住・定住の促進
- 岩手県三陸地域との交流を通じた取組の推進

■ 地域の豊かな食材の魅力発信や販路拡大

- ICT技術の利活用による新鮮・多彩な一次製品の生産・流通の促進
- 特色ある食材を活かした商品・メニュー開発及びブランド化の推進、国内外への販路拡大

■ 地域の未来を支える人材の確保・育成

- 関係機関が連携した人材確保対策の推進、就業体験機会等を通じた地域産業の魅力発信
- 管内企業の技術力の情報発信等によるものづくり産業の担い手確保・育成
- 就業しやすい環境づくりによる農林水産業の担い手確保・育成
- すべての子どもたちが健やかに育つことができる環境づくり
- ふるさとへの誇りと愛着を育むふるさと教育の推進

■ 胆振東部地震からの復旧・復興の推進




- 地域産業の持続的な振興をはじめとした、復旧・復興方針に基づく取組の推進
- 移住・定住の取組の推進や、地域資源の磨き上げ・活用による被災地域への人の呼び込み強化

KPI

□管内への観光入込客数	1,618万人 (R1) → 1,794万人 (R7)	□地域おこし協力隊の隊員数	53名 (R2) → 59名 (R7)
□食品工業の付加価値額	268億円 (H30) → 287億円 (R7)	□新規就農者	98人 (H28～R2累計) → 121人 (R3～R7累計)
□新規漁業就業者	103人 (H28～R2累計) → 113人 (R3～R7累計)		
□新規林業参入者数	34人 (H27, H29, H31累計) → 35人 (R3, R5, R7累計)		
□新規高卒者の管内就職内定率	71.8% (R2) → 73.0% (R7)		

「ひだか」製品のブランド力向上と消費拡大プロジェクト

【推進エリア】道央連携地域（日高地域）

<p>目的</p>	<p>日高地域では、全国生産の約8割を占める軽種馬生産に加え、全道一の生産を誇るトマトやピーマンのほか、イチゴ、肉用牛、コンブ、鮭（銀聖）、ウニ、マツカワなど様々な農水産物が生産されている。また、人工林の大半を占めるカラマツ・トドマツが利用期を迎えている。</p> <p>このような恵まれた農林水産物の生産振興対策を図るとともに、「ひだか」製品の知名度向上と販路拡大に取り組む。</p>
<p>施策</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>■ 農林水産物の生産振興対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高収益作物の生産拡大による農業経営の安定化 ○クリーン農業など付加価値の高い農業生産の推進 ○適切な森林整備に伴い産出される木材の高付加価値化の推進 ○管内農水産物に係る6次産業化・ブランド化等の高付加価値化 ○安定した収益が見込める魚種による栽培漁業の推進 ○ウニ漁業の生産安定化に向けた対策の推進 ○鳥獣被害防止対策の推進 <p>■ 「ひだか」製品の知名度向上と販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ○商品開発力・マーケティング力強化 ○「ひだか」製品の販路拡大 ○「ひだか」製品のプロモーション <p>■ 強い馬づくりに向けた軽種馬生産</p> <ul style="list-style-type: none"> ○強い馬づくりのための生産振興支援 ○軽種馬経営の構造改革に向けた取組支援 ○ホッカイドウ競馬運営への取組支援 </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>農林水産物の生産振興対策の推進</p>  <p>↓</p> <p>「ひだか」製品のブランド力向上と消費拡大</p> <p>↑</p> <p>「ひだか」製品の知名度向上と販路拡大</p>  </div> <div style="width: 45%;"> <p>強い馬づくりに向けた軽種馬生産</p>  <p>↓</p> </div> </div>
<p>KPI</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ウニの単価向上 8,600円/kg (R1) → 14,100円/kg (R7) <input type="checkbox"/> 軽種馬生産規模の維持 5,873頭/年 (R1) → 5,900頭/年 (R7)

「ひだか」の産業を支える人材確保・育成プロジェクト

【推進エリア】道央連携地域（日高地域）

目的

人材不足が課題となっている各産業へ人材確保・育成の対策を講じるほか、将来の人材を確保するため、教育機関と連携・協働を進めるとともに、移住・定住の促進に向けた住環境の整備により転出の抑制や転入の増加を図り、持続可能な産業振興を目指す。

施策

■ 一次産業をはじめとする各産業の担い手等の育成・確保

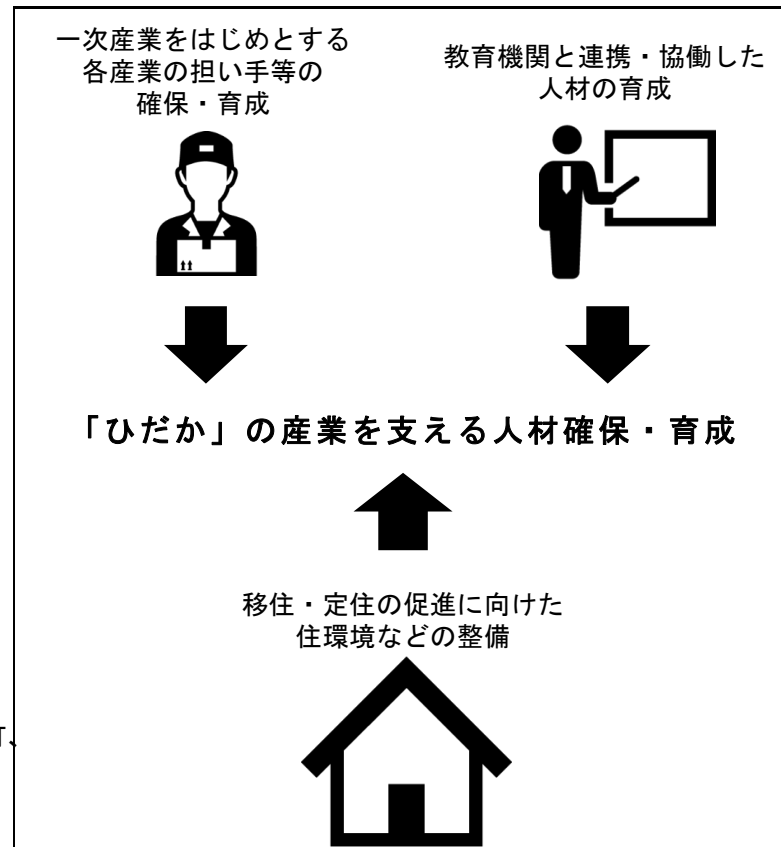
- 管内外の就業希望者への情報提供、短期就業体験の実施
- 新規就業者への研修や技術指導、給付金の交付などによる支援の実施
- 地域の受入体制の整備や関係団体の取組の推進
- 住民と外国人が互いの文化等を理解・尊重し合うことができる
多文化共生社会の理解促進

■ 教育機関と連携・協働した人材の育成

- インターンシップや就業体験の実施
- 馬文化出前教室の開催や調理を学ぶ学生への日高産水産物の提供、
就業フェア等による地域産業への理解の促進

■ 移住・定住の促進に向けた住環境などの整備

- 空き家対策等による住居の確保
- 地域医療の確保や福祉の充実、災害に強い地域づくり、
教育などの充実などによる生活環境の整備
- 地域づくりの主体となる人材の育成・確保
- SNS等のインターネットを活用した一元的な情報発信などによる、管内各町、
団体等と連携した移住・定住の促進
- 地域住民の生活を支える公共交通の維持確保と利用促進



KPI

- 新規就業者数（農業） 14人（R1） → 25人（R7）
- 新規就業者数（漁業） 11人（R2） → 14人（R7）

「ひだか」の魅力発信と観光の振興プロジェクト

【推進エリア】道央連携地域（日高地域）

目的

日高地域は、軽種馬生産による広大な牧場風景に加え、ユネスコ世界ジオパークのアポイ岳や、国立公園化が予定されている日高山脈襟裳国定公園、日高山脈から襟裳岬に連なる変化に富んだ海岸線が一体となった独特な景観が見られるなど、豊かな自然環境を有している。また、アイヌ文化が継承され、多様な食材の宝庫となっている。

これらの優れた地域資源を最大限活用し、民間事業者等とも連携しながら、「ひだか」ならではの魅力発信、広域観光の展開などにより、地域の活性化を図る。

施策

■ 札幌・胆振・十勝圏域などからの誘客を図る広域観光の推進

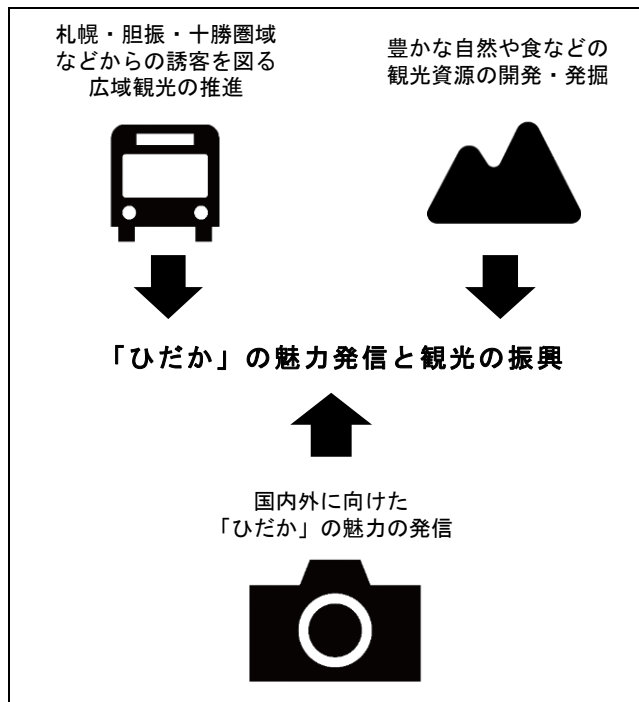
- 地域資源を組み合わせた新たな広域観光ルートの創出及びPR
- 観光関連の民間事業者間の連携促進

■ 豊かな自然や食などの観光資源の開発・発掘

- 地域特性を活かした観光ブランドの向上
- 地域特性を活かした新たな観光資源の掘り起こし

■ 国内外に向けた「ひだか」の魅力の発信

- 各種イベント、キャンペーンなどによるPR活動の実施
- SNSなどインターネットを活用した効果的な情報発信



KPI

□ 宿泊客延数 230千人（R1）→266千人（R7）